

平成23年度 キャリア教育実践セミナー まとめ

実施要項

1 趣旨

- (1) 発達段階に応じた系統的・計画的なキャリア教育の推進を図る。
- (2) 今後のキャリア教育の推進について、学校、家庭・地域、産業界等がともに協議し、連携の強化を図る。

2 主催 山口県教育委員会

3 共催 下関市教育委員会、岩国市教育委員会

4 開催期日及び会場

地区	開催期日	会場
西部	平成23年8月11日(木)	菊川ふれあい会館アブニール(下関市)
東部	平成23年8月25日(木)	周東文化会館周東パストラルホール(岩国市)

5 対象

- (1) 小・中・高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の教員
- (2) 各市町教育委員会キャリア教育担当者
- (3) 保護者、地域・産業界関係者等

6 参加会場

地区	小学校、中学校、高等学校等、市町教育委員会	特別支援学校
西部	厚狭地域、下関地域、萩地域	所属校の最寄りの会場に参加する。
東部	岩国地域、柳井地域、周南地域、防府地域	

※ なお、指定された地区以外への参加を希望する場合には、小学校及び中学校においては、該当の市町教育委員会に、また、高等学校、高森みどり中学校、下関中等教育学校及び特別支援学校においては、高校教育課に事前に相談のこと。

7 日程及び内容

- 9:30～10:00 受付
- 10:00～10:10 開会行事
- 10:10～10:30 所管説明
- 10:30～11:50 キャリア教育に関する講演
- 11:50～12:00 質疑応答

《講師》

- 8月11日(木) 文部科学省初等中等教育局児童生徒課専門職 酒井智行氏
- 8月25日(木) 国立教育政策研究所生徒指導研究センター総括研究官 藤田晃之氏

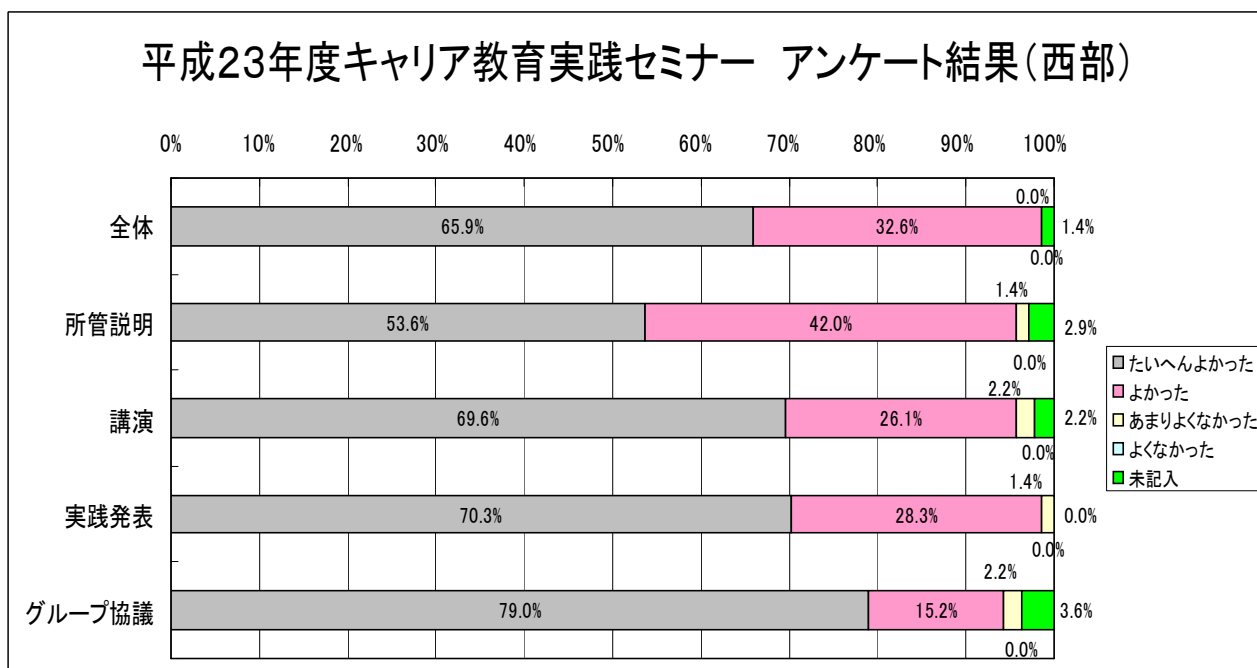
- 12:00～13:00 昼食・休憩
- 13:00～14:00 実践発表(小・中・高)
- 14:00～14:20 移動・休憩
- 14:20～15:50 グループ協議(小・中・高・特別支援学校教員、保護者等)
- 15:50～16:00 閉会行事

	実践発表校		
	小学校	中学校	高等学校
西部	下関市立本村小学校	美祢市立秋芳南中学校	県立新南陽高等学校
東部	柳井市立神西小学校	周南市立周陽中学校	県立柳井高等学校

1 アンケートのまとめ

【西部】

《実践セミナーの内容はいかがでしたか。》



《キャリア教育実践セミナーやキャリア教育の推進についての意見や感想、要望等》

1 全体的なことについて

- ・キャリア教育を一から見つめ直すことができたように思う。子どもと一緒に「何をしたいのか？どうなりたいのか？」ということを常に自問自答しながら教師としての生き方を模索していきたい。(小学校)
- ・周りの大人たち(教師・保護者・地域の人々など)が、毎日をはつらつと元気に生活し、その姿をしっかりと見せていかななくては！と思いました。(小学校)
- ・「キャリア教育の連携」の大切さ、そして、今私が中学生にどのような力を育てていけばよいのかを考える機会となりました。(中学校)
- ・学校がやっていたこと、地域でやっていたこと、生徒の実態、地域や保護者の希望など、きちんと見直し、整理して、計画に生かしたいと思う。(中学校)
- ・キャリア教育というと、進路指導が主管と思っていたが、学校の教育活動をしっかりキャリア教育につなげていく視点をもてるようになりたいと思う。(高等学校)
- ・キャリア教育の理念や意義を勉強することができた。教科、生徒指導などキャリア教育の視点から見直してみようと思う。(高等学校)
- ・地域との連携がキーワードであるという言葉が心に残った。子どもたちが将来に夢と希望をもてるよう大人たちがしっかりと考え実行していかなければと思う。(保護者)
- ・保護者・産業界からの参加者として、十分に学校関係者の現状を聞き、今後の参考にして人間形成を行っていければと思った。(保護者)

2 所管説明について

- ・所管説明と講演の内容の重なりが大きかったように思う。基礎的・汎用的能力について詳しく知りたい。(小学校)
- ・キャリア教育について参考となる資料や活用できるテンプレートなどが一覧できるウェブがあれば知りたい。山口県版のようなものがあるとよいと思う。(中学校)

3 講演について

- ・文部科学省の酒井先生のお話は、とても勉強になった。(高等学校)
- ・講演では日本の特異なデータを拝見し、生徒の主体性の低さについて考えさせられた。勉強することの目的を明確にもたせることが自分の責任でもあり、子どもたちにとっても一番大切ではないかと感じた。(特別支援学校)

4 実践発表について

- ・各校の取組や今後の課題について知ることができ、大変、勉強になった。(小学校)
- ・具体的な取組・事例等をもっと知りたいと思った。(中学校)
- ・もっと多くの学校の実践発表を聞きたかった。3校の発表はとても分かりやすく勉強になった。(高等学校)
- ・各学校が、子どもたちが成長していく過程で、いろいろな活動をされ、キャリア教育に取り組んでおられる姿を見ることができ、心強く思った。(保護者)

5 グループ協議について

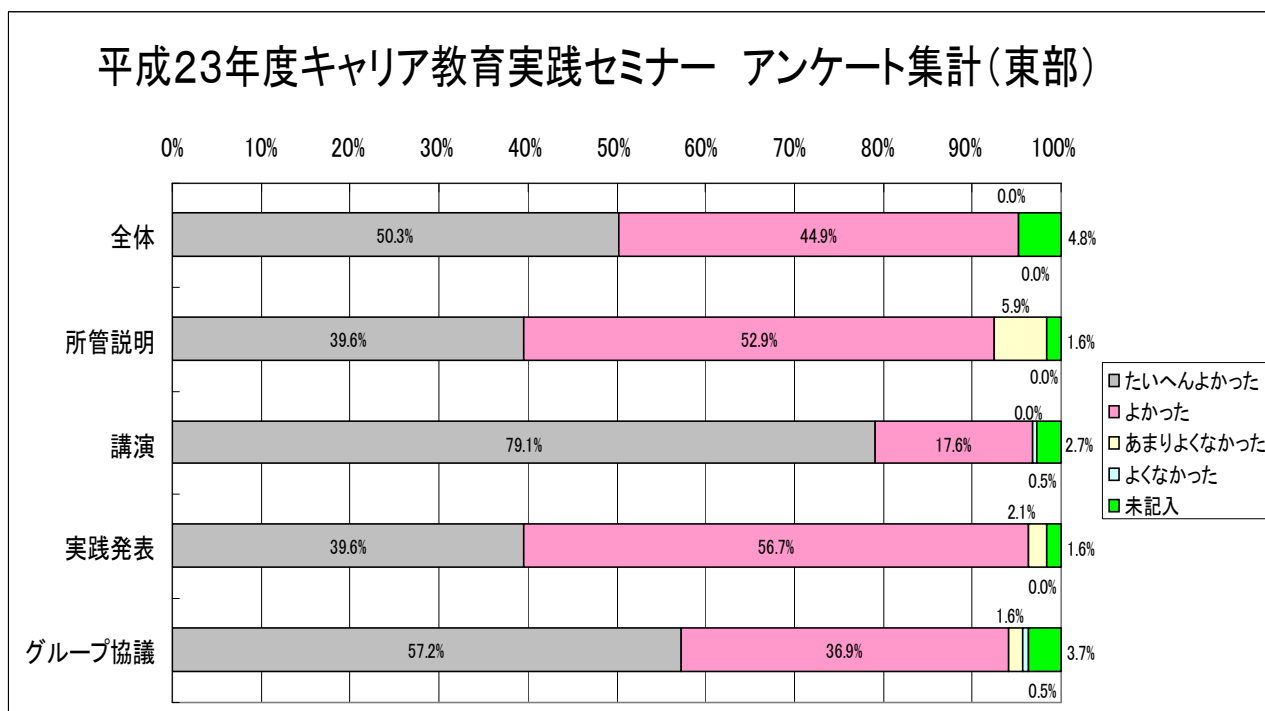
- ・縦のつながりというテーマでしっかり意見を出し合い、各校種の実態を知ることができてよかった。(小学校)
- ・グループ協議で「夢を志に」という話を伺った。魅力的な大人にならなければならないという意見を聞き、共感した。(中学校)
- ・様々な事例発表があり非常に参考になった。グループ協議ではPTAの方や、企業の方も参加され、意義のある協議となったと思う。(高等学校)
- ・グループ協議のテーマを5～6設定し、そのグループで検討したいテーマを全員で相談・決定し協議を進めてもよいのではないかと思う。(保護者)
- ・グループ協議の部屋の設定の仕方を工夫していただきたかった。他のグループの声が入ってきて、声が聞き取りにくかった。(小学校)
- ・グループ協議では、いろいろな立場の方の意見を聞くことができてよかったと思うが、テーマが漠然としすぎて、何を話し合っているのかよく分からなかった。話し合いのテーマをもう少し具体的な内容に絞った方がみんなの意見や思いを聞くことができたのではないかと思う。(小学校)

6 その他

- ・講演については、行政・教育・企業などいろいろな立場、角度からのアプローチを考えて、パネルディスカッションにしてはどうか。(小学校)
- ・小・中・高の各段階でのキャリア教育の目標を掲げてもらえると、系統立った形で各校種のカリキュラムができるのではないかと感じた。(高等学校)
- ・配付資料を見て思ったが、小中はキャリア教育のコア要因を軸に、教育カリキュラムを考えておられるが、高校では、その点が薄い状況であった。これは何か理由があるのだろうか？気になった。

【東部】

《実践セミナーの内容はいかがでしたか。》



《キャリア教育実践セミナーやキャリア教育の推進についての意見や感想、要望等》

1 全体的なことについて

- ・小学校のキャリア教育はどうあるべきか。「やるべきことができる」子どもの育成が一番大切なのではないかと感じた。連携の仕方についての情報をもっと聞きたかった。(小学校)
- ・小・中・高と校種の違う学校のキャリア教育の様子を知ることができて、大変有意義であった。児童生徒の基礎的・汎用的能力を育てるためには、教師間、地域の人々との連携が重要であると思った。(小学校)
- ・生徒が能動的に自分の夢を考え、語れるようキャリア教育を推進していきたいと感じさせられた1日であった。(中学校)
- ・キャリア教育は特別なものではなく、今までの取組を視点を変えてみることで、生徒にとって意味のあるものになることが分かった。(中学校)
- ・キャリア教育は、教科、特活、総合的な学習の時間と多岐にわたる部分で行われるべきだということを知ることができた。(高等学校)
- ・以前から、学力向上と進路意識の醸成は生徒たちの納得のいく進路実現のために欠くことができない車輪の両軸だと思っていた。キャリア教育は、子どもたちが社会人として将来活躍するための大きな基盤の一つとなることを強く認識し、共感した。(高等学校)
- ・キャリア教育について、いろいろな考え方が分かることが分かり、保護者もしっかり協力しなければと思った。(保護者)

2 所管説明について

- ・国及び県の方針がよく分かって、今後の進むべき方向が見えてきた気がする。(中学校)
- ・山口県の取組に絞って説明した方がよかったのでは。藤田先生の話と重複する部分が多かったように思う。(高等学校)

3 講演について

- ・藤田先生のお話が大変勉強になった。資料を参考にして、本校の指導計画を練り直したい。(小学校)
- ・キャリア教育の経緯や今後の展望などについて具体的で分かりやすい講演であった。(小学校)
- ・心の中のモヤモヤを言葉にさせていただいた感じがする。大変有意義であった。

4 実践発表について

- ・実践発表は各校とも具体的で大変参考になった。もう少し発表時間が長くてよいと思う。(小学校)
- ・職場体験において、事前事後の指導がとても大切であることが分かった。ねらいを明らかにすることが重要だと改めて感じた。

5 グループ協議について

- ・中学校や高等学校の先生方の話を聞くことができ新鮮であった。話を参考にして、小学校でできる役割を考えて実践していきたい。(小学校)
- ・異校種間の情報交換や生の声を聞くことができ大変参考となった。(中学校)
- ・先生と保護者の連携が今よりもっと踏み込んだ形でできるとよいと感じた。(保護者)
- ・グループ協議は、可能ならば、複数のグループが同じ部屋ですることは避けた方がよいと思う。話が聞きにくかった。(中学校)
- ・グループ協議は大変有意義な議論ができたと思うが、時間が短く、深まらなかった感もある。

6 その他

- ・会場図が分かりにくかった。(高等学校)
- ・来年度のセミナーにおいて、本年度のセミナーの成果がどのように生かされているかを見せていただくとよいと思う。(保護者)
- ・校種別のグループ協議も効果があると思う。(高等学校)
- ・各校種、各学校で行っているキャリア教育推進のための行事等の一覧表があると大変参考になると思う。(高等学校)
- ・キャリア教育の本当の意味の定着には、まだまだ時間がかかりそうだという印象を受けた。(高等学校)
- ・学校関係者にとっては分かりやすい内容であったが、PTA関係者にとってはどうか。家庭や地域からの視点で発表や研修があるとよいのではと感じた。(小学校)
- ・企業・事業所側の意見等も聞きたい。(中学校)
- ・キャリア教育は、いつでも、どこでも、誰にでもできるものなのではないか。日常的な生活スキルを伸ばすキャリア教育を第一に考えていただきたい。(保護者)

2 グループ協議のまとめ

協議題：「子どもの社会的・職業的自立に向けたそれぞれの役割と連携について」

【西部】

《学校の役割》

- ・当たり前にしなければならないことを小、中、高どの段階においても伝えていかなければいけないと思った。社会の厳しさを感じさせないといけないと思うが子ども一人ひとりを認め、自信をもたせることも大切である。
- ・小学校は担当した1年というスパンで指導しがちであるが、小学校6年の後に中学校があり、高校があるという意識や先の見通しのある指導が大切であると思う。
- ・生徒に自分は何を身に付けたいといけないうか、何が身に付いたかを考えさせることが必要である。中学校で職場体験活動を実施しているが、その中で生徒はあいさつや返事、忍耐強さ、コミュニケーションをとることの大切さ等を実感してくる。そうした体験活動を小学校から中学校、高校まで継続していくことが必要である。

《家庭・地域の役割》

- ・子どもが幼稚園に通っている時に、ちょうちょ結びができない時は、残ってできるまでさせられた。子どもたちに様々な体験をさせて、できる喜びを味わわせたい。子どもにしっかり手をかけて、一緒に何かを体験させたい。
- ・夢や希望と違って根性で続けたことが自信につながるのではないか。自分でも頑張れた、努力して乗り越えたという体験を小中高と積み重ねることが大切である。

《産業界等の役割》

- ・各企業では、就職した若者の未熟さや早期に離職する現実がある。社会環境が変化し、様々な情報が得られる。かつては、情報がなく、職に就いたところが天職ととらえていた。現状は、他にも向いたところがあると考えたり、辛抱することができず、きついことを言うとやめていく傾向がある。日頃の躰などでよい方向に導くことができるのではないか。

《学校と家庭・地域・産業界等の連携》

- ・いろいろな職業に関わる人たちに出会わせることで子どもの夢が広がる。また、学校の中での縦割り班や地域、スポーツ少年団などで、なるべく多くの人と関わる経験が大切である。多くの人と関わる中で、様々な場で認められる喜びを感じることでキャリア発達につながると思う。
- ・キャリア教育のベースに人と人とのつながりが重要である。PTAと学校、商工会議所等がうまくリンクして取り組めるようになるとキャリア教育の効果が上がると思う。
- ・社内教育は、社内でできる。仕事をして生きがいを感じるような人材を育ててほしい。素地がある人とない人とでは違いが出る。達成感を味わったり、仕事が生きがいの一つとなるような気持ちをもてる人を育ててほしい。

【東部】

《学校の役割》

- ・ 集団生活の中で、あいさつや礼儀などの基本的なマナーを身に付けさせるとともに、いろいろな人の考えや立場を理解したり、自分の考えを伝えたりすることができるようにする。
- ・ すべての教育活動においてキャリア教育の視点を持ち、自ら学ぼうとする姿勢や、希望や目標をもって学習活動や学校生活に取り組む態度を育成する。
- ・ 職場体験を実施するに当たっては、そのねらいを踏まえた体験内容等について、受け入れ先と十分連携を図るとともに、生徒に取り組む姿勢を十分指導するなど、事前指導の充実が必要である。

《家庭・地域の役割》

- ・ 社会の変化の中で、子どもたちは自然体験や地域との交流機会が減っている。家庭においても、地域へ積極的に関わることが大切ではないか。
- ・ 便利さを求めたり、失敗させることを避けたりすることで、子どもたち自らが体験の場を親や大人が奪っているのではないか。子どもにできる手伝いをやらせるなど、失敗も含めて数多く経験しておくことが大切である。

《産業界等の役割》

- ・ 社会経験がない生徒が、実際に社会に出て体験することは貴重である。例えば、勝手な態度を取れば集団や組織に居づらくなることを学んだ子どももいる。
- ・ 職場体験・インターンシップでは、大人目線で生徒を見るので厳しくなりがちだが、失敗を受け入れ、フォローできる環境が大切なのではないか。

《学校と家庭・地域・産業界等の連携》

- ・ 「キャリア教育がどういうもので、どうして必要か」ということかが、保護者や地域に十分伝わっていない。積極的な情報（職場体験の意義・成果等、教育活動全般）について、キャリア教育という言葉を使いやすい言葉に換えて繰り返し発信し、キャリア教育に対する認識を広めていくことが必要である。
- ・ 地域の行事に積極的に参加するなど、地域の人と関わる機会をできるだけ設けることにより、子どもたちのコミュニケーション能力を育むとともに、社会的視野を広げることができる。
- ・ 卒業生に学ぶ機会や小中及び中高の交流学習など、校種間の連携による、異年齢集団を生かした取組が社会的自立に向けて効果的である。
- ・ 職場体験実施中は、その事業所に「のぼり」を掲げて、地域にアピールすることで、地域ぐるみでキャリア教育を進める雰囲気づくりができるのではないか。